

1. 生産コスト縮減に向けた取り組み

1) 低コスト・省エネ対策

① P K 低減肥料、緩効性肥料の利用による肥料費低減

長年の連作により土壌中にPやKの肥料成分の蓄積が認められており、各圃場に適した肥料選定を行い、無駄な施肥を控えた、安価な肥料を使用する。また、緩効性肥料の施用により、施肥量を削減する。

普及に当たっての留意事項

・土壌分析による圃場の現状把握を行うとともに、有機物等の施用による施肥成分の影響も考慮する。

2. 今後導入及び普及が期待される取り組み

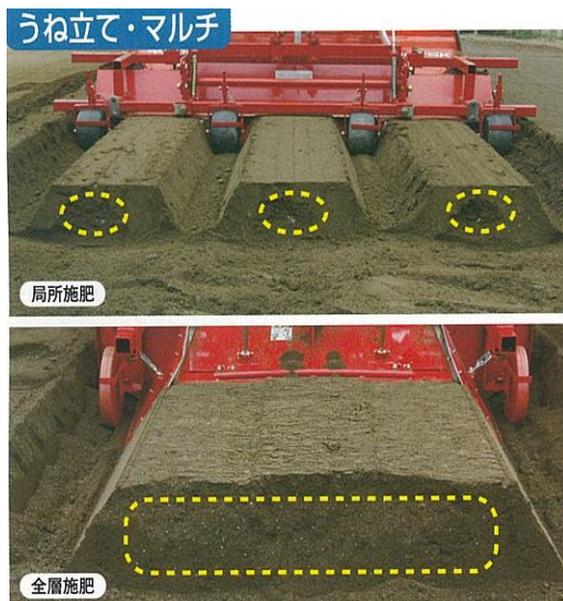
1) 低コスト・省エネ対策

① 畝内全層施肥による施肥経費削減及び作業軽減

畝内部分施肥は、土地利用型の野菜生産において、肥料や病害虫防除剤等の各種資材を栽培する畝の中央部にだけ線状に土壌と混合して施用し、うね間など無駄なところには施用しない技術。また、施肥、畝立ての作業工程を1行程で行うことができ、作業体系の簡略化にもつながる。

普及に当たっての留意事項

・肥料の施用量を30%削減して施用しても慣行と同等以上の収量確保が可能。



クボタ機械カタログより

2)省力化対策

①中耕、除草機の活用

初期生育時の中耕、除草機の利用により、根張り促進、雑草の発生抑制が図られ省力化が図られる。

普及に当たっての留意事項

・機械の使用時期は、にんじんの生育状況により判断する。



中耕・除草機

②収穫におけるフレコン利用

フレコンに対応した収穫機、運搬機を活用することで省力化が図られる。

今後、選果場の整備に伴い導入が増えてくる。

取組の事例

・JA島原雲仙島原地区ではフレコンによる選果場持込体制が確立している。
平成28年度実績 作付面積 92.5ha
取扱量 3,340t

普及に当たっての留意事項

- ・クレーン等の吊り上げ機械が必要
- ・コンテナと違い積み重ねができないためややスペースが必要
- ・フレコンでの貯蔵はコンテナと比較しやや通気性が落ちるので注意する。



運搬機(フレコン対応)

イセキ機械カタログより

3. 生産コスト縮減に向けた取り組み(経営シミュレーション)

(千円/10a)

項(費)目	H29現状		改善後		削減率	主要な取組み
	費用	割合	費用	割合		
種苗費	57	29.5	57	29.8		
肥料費	33	17.1	30	15.7	9%	*土壌診断に基づく適正施肥 ・畦内施肥による施肥量削減(約10%)
農業薬剤費	26	13.5	26	13.6		
動力光熱費	7	3.6	7	3.7	0%	*農業機械の省エネ対策
諸材料費	1	0.5	1	0.5		
修繕費	5	2.6	5	2.6	0%	
減価償却費	14	7.3	14	7.3	0%	・畦内全層施肥機の導入
雇用労働費	0	0.0	0	0.0		
その他経費	50	25.9	51	26.7		
計	193	100	191	100	1%	

※1経営体当り経営面積 150a

(注釈)

* は、平成25年度長崎県農林業基準技術で採用した技術である。

主要な取組みの赤字は、今後導入及び普及が期待される取組み(技術)である。

各費目毎の削減率は、主要なコスト縮減の取組を組み合わせた際の削減率である。